

芸豪烈伝その18

木村若衛

きむら わかえ

「浪曲は新しいことに挑戦してほしい」

写真・森 幸一ほか 文・おさだ馬之助



サラリーマンは社長に、芸人は会長になることを夢見ている!? 落語の鈴ヶ舎馬風の十八番が「会長への道」だ。この場合の会長は落語協会だが、木村若衛は落語協会を含む14ある演芸家団体の連合体である「日本演芸家連合」の会長なのだ。その会長職は単なる名誉職でなく文化庁との折衝や演芸家の権利を守る作

きむら わかえ 本名・稲葉幸太郎。大正2年(1913)12月29日、横浜市うまれ。82歳。昭和3年4月、木村友衛に弟子入り。同年、轟々木米若の人気にあやかり「若」の字をいただき若衛と自分で名をつけた。戦中、戦後、人気実力ともにトップクラスで昭和33年に浪曲協会の会長に最年少の45歳で就任した。昭和53年から日本演芸家連合会長。趣味は読書、競馬。

業など、演芸家のトップとして実質的な責任を伴う重要な仕事をしている。若衛師は演芸を生業なりわいとして、千五百人の代表なのだ。

会長イコール偉くて怖い、の単純な発想で当方は不整脈の心臓をドキドキさせつつ若衛師の東日暮里にある家を訪れた。

緊張のあまり、あろうことか当方は「飲む打つ買う」の三道楽から聞いてしまった。

「酒、タバコは昔からやりません。女性? 女性は、まあ、周りの人から見たらモテタほうでしょうね。」

大阪の公演のとき、楽屋に女性が3人またまたま運が悪くかちあつて往生しました。女性3人が火花を散らしましたね。私は、ほうほうの体で逃げました。大昔の話です。ハハハハハハハハ、と当方もつられて笑ってしまった。初対面の人間にも心を開き本音を語るやさしい会長なのだ。

若衛師は軽い脳梗塞を起こして浪曲は5年前にやめたが「舞台」は動いている。というの口上である。昨年8月に行なわれた二代・木村松太郎襲名での本寸法の口上は印象に残る。

毎年、5月1日から10日まで日本演芸家連合が主催する「大演芸まつり」(東京は三宅坂の国立劇場・演芸場にて)には会長として10日間、舞台から口上を述べるのだが、その姿は貫祿と風格に満ち、話の内容も簡にして要を得て





昭和61年に勲四等旭日小綬章を受章した。写真は、右が祝福のスピーチをする故・宮田輝参議院議員。左は合三味線も務めた昭子（てるこ）夫人（2年前に死去）。

実があり、口上のお手本といえる。

わが浪曲も5月6日（月）に公演を行なう。今年は「太閤記」で二代・東家浦太郎、澤孝子、玉川福太郎ら精鋭が、とっておきの外題でご機嫌をうかがいます。（14 P参照）

さて若衛師に話をもちそう。日本演芸家連合の会長として19年勤めているが、対抗馬はでないそうだ。

「最初の会長就任の挨拶で私は「なんにも知りませんが全力を尽くします」といいました。事実、浪曲以外になんにも知らなかったのです。

それ以来、勉強しました。私は高等教育を受けていないので、本や新聞を読み、いろいろな人と会って知識を吸収しました。立场上、社会的地位の高い人に会う機会が多いのです。いま話題の社会的事柄に話が合わせられるよう、受け答えができるよう心掛けています」

怠け者で、ろくすっぽ新聞にも目を

通さない当方には耳が痛い。

若衛師にOBとして現在の浪曲を語ってもらおう。

「いまは残念ながら人材不足ですね。芸が平均化しています。個性が無い芸は大きくならないんです。失敗してもともと、のつもりでチャレンジしてほしいです」

「二代・東家浦太郎は、いいところに来ていますが、いまひとつ独特の味がない。それが出来れば大看板ですよ」

「澤孝子は勉強家で将来が、とても楽しみです」

「玉川福太郎はいい才能がある。期待しています。ただ、もうすこし先輩の助言を聞いたほうがいい。ハハハ」

「国本武春を『浪曲の春風亭小朝』だという評価があり、私はうれしいです。武春は新しいものに体当たりしていて、さすがに好き好きが持てる。自分の昔もあだつたなと思いますよ」

新しく良いことに挑戦する、が若衛師の終生のテーマだ。

戦前から、マイクの普及を見通して声の通りはいいがノドはつぶす胸声でなく「普通の声」である上声にしていった。「たいへんな冒険でしたし周囲からも非難されましたが、上声は女の声も使えるし歌もうたえますしね」

その歌だが、戦時中にジャズピアノの和田肇と組んで「歌謡浪曲」という新ジャンルを開拓した。「仲間には異端児扱いされボロクソにいわれました。



待ってました、挨拶の名人。浪曲界の現状と未来の展望を語り、武春の受賞を讃え、参会者の健康と幸せを願う。過不足ない内容で、滋味あふれるスピーチを聞く幸せになる（3月16日、東京のレストラン）

しかし女性ファンは獲得しました」浪曲ラジオドラマに出演したり、たくさん新作を演じたり、若衛師の進んできた道はそのまま浪曲の歴史でもある。

好きな言葉は誠実。若衛師がいま、気になることは、

「日本の政治です。日本はいま、さまざまなことで揺れ動いています。政治家は自分自身や党利党略でなく、日本の未来のために体を張ってもらいたいですね。むかしは、そういう政治家がたくさんいたのですから」

若衛師は純粹に日本の将来を憂いている。視野が広く、進取の精神に富み気持ち若々しい。柔らかい口調だが端然として人間の大きさがうかがえる。

新聞といえばマンガとスポーツ欄しか目を通さない当方は恥じ入るばかりだ。明日からは、せめて社会面の見出しくらいは読もうかな。

浪曲…これほどすばらしい芸は他にはないと

思います。

浪曲家の皆さん…頑張ってください。

多くのファンを楽しませて下さい。

18/52

葛飾区・坂本豊吉